

ミヤマシボグモモドキ *Zora nemoralis* (Blackwall)

【選定理由】

県内の極めて限られた地域に生息する。もともと個体数が少なく、生息地の破壊で急速に減少していると考えられる。

【形態】

体長雌 3.5~5.0mm、雄 2.5~4.0mm (小野, 2009)。雄の背甲は濃茶褐色で中央・側縁・外縁に多数の白色斑がある。腹部背面は濃茶褐色で白色の斑が多数ある。4脚とも各節は黒色だが、跗節は赤褐色。全体に黒い印象を受ける。雌の背甲は茶褐色で、両縁に濃茶褐色の波形模様で外縁は灰白色。4脚とも淡褐色で濃茶褐色の環がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市 (旧稲武町) に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州 (山梨県・群馬県・長野県) に分布する (新海ほか, 2018)。

【世界の分布】

日本固有種。



♀. 豊田市稲武町月ヶ平, 2012年5月7日, 緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

山地の広葉樹の地表を徘徊する。幼体で越冬し、雄は5月ごろから、雌は6~7月ごろに成体になる。産卵や卵のうの時期など詳しい生態は明らかになっていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県初記録は2011年6月3日に、長野県との県境付近の豊田市大野瀬町池ヶ平で雌1頭が採集されたが、その後の調査では確認されていない。2例目は2011年9月12日に、同市稲武町月ヶ平で幼体8頭が確認された。しかし、2012~2013年にかけて歩道の拡張工事により、大部分の生息地が破壊されて1~3頭と激減した。2018年5月の調査では10数頭確認されたので、増加傾向にある。生息地の保全にあたり、歩道拡張や伐採等の工事は慎むべきである。

【保全上の留意点】

落葉樹の地表を徘徊する種なので、伐採は慎むべきである。また、歩道の拡張工事は直接生息地の破壊につながるため、これ以上の工事は慎むべきである。

【特記事項】

国内では本種とシボグモモドキ (*Z. spinimana*) の2種が知られている。シボグモモドキの雌は本種の雌と酷似するが体長は5~6mmと大きく、脚の各節は太く膝節・脛節・蹠節・ふ節は濃褐色をしている。シボグモモドキは県内からは発見されていない。ミヤマシボグモ科からツチフクログモ科に変更された (谷川, 2017)。

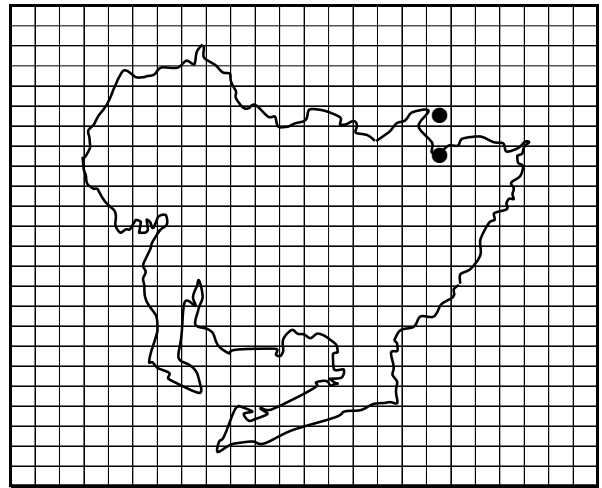
【引用文献】

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.469. 東海大学出版会, 神奈川.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.
谷川明男, 2017. 日本産クモ類目録 ver.2017 R1. (<http://www.Asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>)

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, pp.132,262. 偕成社, 東京.
新海栄一, 2017. 日本のクモ, p.273. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.313,554. 東海大学出版会部, 神奈川.
緒方清人, 2013. ミヤマシボグモモドキの生息地が破壊された, 蜘蛛. 46: 19-20. 中部蜘蛛懇談会.

県内分布図



(緒方清人)